

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

分担研究報告書

小児糖尿病(インスリン依存型糖尿病)の長期予後に関する疫学研究

分担研究者 田嶋 尚子 (東京慈恵会医科大学内科 3)
研究協力者 福島直樹 (市立札幌病院小児科) 豊田隆謙 (東北大学大学院医学研究科)
今田進 (千葉社会保険病院小児科) 浦上達彦 (駿河台日本大学病院小児科)
一色玄 (大阪市立大学医学部小児科) 堀田饒 (名古屋大学医学部内科 3)
武田倬 (松江赤十字病院内科) 戒能幸一 (愛媛大学医学部小児科)
仲村吉弘 (福岡赤十字病院内科) 陣内富男 (陣内病院)
川村智行(大阪市立大学医学部小児科)松島雅人 (東京慈恵会医科大学内科 3)
リサーチレジデント 浅尾啓子 (東京慈恵会医科大学内科 3)

研究要旨

平成 11 年は、1) 1960 年代・1970 年代に診断された患者の 1995 年現在までの長期予後に関する検討、2) 1980 年代に診断された患者コホートの設立及び 2000 年現在までの長期予後を検討するための調査プロトコールの準備、3) 大阪地域における慢性合併症の疫学調査、を行った。今後は、小児糖尿病をとりまく医療環境が整備された 1980 年代に診断された患者集団を含め、全コホートの予後を調査する予定である。

A. 研究目的

私たちの分担研究では、小児糖尿病（インスリン依存型糖尿病）患者の予後に関する疫学研究を行うことを目的とする。特に罹病期間で最長 30 年以上にわたる長期予後、生命予後及び慢性合併症について、医療的側面及び医療環境的側面の両面から検討する。

B. 研究方法

全国 11 名の研究協力者及びリサーチレジデントを得て、研究を遂行した。今年度は、大きく 3 テーマについて研究を進めた。すなわち、1) 平成 10 年度までに引き続いて、1960 年代・1970 年代に診断された患者の 1995 年現在までの長期予後に関する検討、2) 1980 年代に診断された患者コホートの設立及び 2000 年現在までの長期予後を検討するための調査プロトコールの準備、3) 大阪地域における慢性合併症の聞き取りによる詳細な疫学調査、である。

C. 研究結果及び考案

1) 1960 年代・1970 年代に診断された患者の 1995 年現在までの長期予後に関する検討（田嶋ら）

平成 10 年度までにほぼ終了した生存状況と合併症の発生に関する 1995 年現在の調査について、より詳細な解析を行った。また、1990 年～1995 年の死亡例に関して、年度内に 3 回の死因判定委員会を開催し、死因の分類・判定を行った。なお、厚生省子ども家庭総合研究推進事業により、米国と死亡率の比較及び死因の分類・判

定の共同作業を行った。

2) 1980 年代に診断された患者コホートの確立（戒能ら）及び 2000 年現在までの長期予後を検討するための調査プロトコールの準備（田嶋ら）

小児データ委員会及び厚生省心身障害研究の結果を基に、1980 年代に診断された小児糖尿病患者のコホートを新たに確立した。また、2000 年 1 月 1 日現在の生存状況及び合併症調査を行うための調査プロトコールを分担研究班会議で討議しながら作成した。また、疫学研究に伴う倫理的問題についても議論を深めた。

3) 大阪地域における慢性合併症の疫学調査（川村ら）

OSAKA Registry の患者のうち 365 名に対して、合併症に関する聞き取り調査を行った。詳細な合併症の頻度とそのリスク要因に関する横断的検討を行った。

D. 平成 12 年度の活動目標

1960 年代、70 年代、及び 80 年代に診断された小児糖尿病患者の 2000 年 1 月 1 日現在の生存状況及び合併症について調査を開始する。この調査により、医療技術及び医療環境の変化が小児糖尿病患者の予後に及ぼす影響の時代的変遷を観察することができる。また、医療環境の改善した 1980 年代診断群を詳細に検討することにより、今後小児糖尿病患者の予後を改善させるにはどのような方策が必要かを検討することができる。

なお、並行して平成 11 年度までの成果を印刷論文としてまとめる。